

## 連合東北ブロック 西日本豪雨災害支援ボランティア活動

# 笑顔で「ありがとう」の言葉に、復旧への貢献を実感

～ 連合福島は、第三次派遣団に、4名を派遣（9/21～9/24）～

連合東北ブロック「西日本豪雨災害支援ボランティア」の第三次派遣団として連合福島から4名（内局1名、JEC連合1名、電機連合1名、電力総連1名）、連合東北ブロック12名の参加者となった。

9月22日（土）、23日（日）は天気にも恵まれ、2日間とも同じ被災住宅での床下の土砂上げ・消毒の作業を行った。作業は狭隘な場所での作業であり、窮屈な体制で土砂を出さなければならず、2～3名が床下での作業、それ以外のメンバーは土砂をバケツリレーにより指定の場所まで運搬した。床下での作業は身体の負荷が大きく、短時間で交代することで負荷を軽減し、作業の効率化をはかった。家主の方も我々が作業をしやすいよう、エアコンや扇風機の配慮を頂いたこともあり、気温が高い中でも熱中症や怪我もなく作業を終了することができた。2日間ですべての部屋を完了することはできなかったが、作業終了時に笑顔で「ありがとう」と感謝を頂いた。感謝や見返りを求めたボランティアではないが、この言葉を頂くだけで少しでも復旧に貢献できたと感じることができた。

参加者からは、「災害が発生して2ヵ月を経過したが、災害前の状態に戻るまで時間がかかると改めて感じた。」「休憩所の子供達のお礼の言葉などを見ると胸が熱くなり、改めて人の絆や温かさを感じた。微力でも貢献できたのであれば嬉しい。」「一人では作業に限界があるが、協力することで何倍も作業を進めることができた。連帯の重要性を感じた。」との声が寄せられた。



連合東北ブロック 第三陣の皆さん（12名）



”スーパーボランティア”尾島さんと連合福島のメンバー



重機が入らない床下は、手作業で泥をかき出す



かき出した泥をバケツに入れる



床下の柱には泥の跡がはっきり



かき出した泥をバケツリレーで屋外へ



1日で集まった災害ゴミの量